

Nursing BUSINESS

ナーシングビジネス

2016
2
February
vol.10



第1 特集 ケーススタディで**学ぶ**

スタッフの**目標管理** 指導のツボ

第2 特集 訪看、ケアマネとどう動く?
退院時**連携**の心得



好評連載 実践的判例よみこなし術
器具の不具合による患者の被害について
医療者の責任はどのように認定されたか

看護部の理念を実現させる
人づくり・チームづくり
えびなモデル(経験学習と概念化・相互作用展開)の創造

みんなでチャレンジ! 私の病棟チーム自慢

本コーナーでは、多職種とともにチャレンジし、効果的な病棟運営を行っている看護師長を紹介します。

File 14

独立行政法人 地域医療機能推進機構
東京高輪病院 副看護部長
地域包括ケア病棟 看護師長

なが いれい こ
永井玲子さん

病棟概要

診療科: 地域包括ケア病棟
病床数: 49床
スタッフ数: 26人(看護師長1人、副看護部長3人、
看護師12人、療養介助員9人、専従理学療法士1人)

撮影 上石一ノ取材・文 田中 元

チーム一人ひとりが持っている素晴らしいアイデアをしっかりと輪にしていきたいと思います。

地域包括ケア病棟の皆さん



チーム全体、同じ方向を向いて地域医療に貢献します!

東京高輪病院(東京都港区)は、1951年の開設以来、「地域に根ざした医療の提供」に力を注いできました。その実績のもと、2014年4月に独立行政法人地域医療機能推進機構へと移行し、同年10月には49床の地域包括ケア病棟を開設しています。同病棟が誕生したことで、急性期から回復期のリハビリを経ての在宅復帰まで、「患者の地域療養」を一貫して支える体制が築かれました。その地域包括ケア病棟で看護師長を務めるのが永井玲子さんです。

地域包括ケア病棟は、2014年度の診療報酬改定で誕生したばかり。まだ「手探り」の部分が多いなか、永井さんは、患者とその家族が安心して在宅復帰を果たすためのチームづくりを第一に考えます。「まず急性期の病棟と合同カンファレンスを開き、

profile: 1989年町田市立看護専門学校卒業後、慈恵医科大学付属第3病院へ入職。1993年社会保険相模野病院へ移り、2003年看護科長に就任。その後、川崎、金沢各社会保険病院への転勤を経て、2013年4月東京高輪病院に入職。翌年4月同病院の副看護部長となり、地域包括ケア病棟の看護師長にも就任。

いきなり在宅復帰は難しいという患者さんにどのようなケアを行うかなどを話し合ったうえで、地域包括ケア病棟で受け入れます」と永井さん。

地域包括ケア病棟の算定は60日。その間に、永井さん自ら院内スタッフとともに患者宅を訪問し、家屋環境などを確認しつつ療養やリハビリの方向性を整えることもあります。また、同院には地域医療連携室と医療福祉相談室を統合した「医療連携・患者支援センター」が設けられています。そのセンターとも顔の見える関係を築き、家族のレスパイトを目的とした短期入院のベッドコントロールなどの調整も行います。内外問わず多くの職種とチームを組む機会が多いなか、「チーム全体が同じ方向を向ける環境を築いていきたい」と永井さんは言います。